

花と木の実践養成教室

花と木の実践養成教室が始まりました！

令和6年4月9日（火）



水みどり課の北村です！
1年間よろしく
お願いいたします。

花づくりの基礎《土・水やり》

植物の好む環境や構造を知ることが大切です。

植物が自然の中でどのように育っているかを知ることが、園芸を始めるにあたり重要になってきます。

育つ環境を理解すれば、用土・肥料・水やりなど植物に合わせて上手く育てることができます。

植物の故郷を知る！

植物の育つ環境を知ることによって、上手に育てることができます。

- 湿気を好むのか！ 乾燥を好むのか！
 - 酸性土壌を好むのか！ アルカリ性土壌を好むのか！
 - 肥料を多く必要とするのか！
 - 寒さに強いのか！ 暑さに強いのか！
 - 生育期、休眠期はいつなのか！
 - 日光を好むのか好まないのか！
- ★適地・適作が栽培の原則です。

良い土とは

根は呼吸をしている
ため酸素が必要

必要な水分は保つ

通気性・排水性・保水性・保肥性

水はけが良く
余分な水分はためない

養分を保持する力

土の種類(主な用土)



排水性・通気性が良い



有機質を含まない土(酸性)



植物性用土



水ゴケが堆積化したもの(酸性)



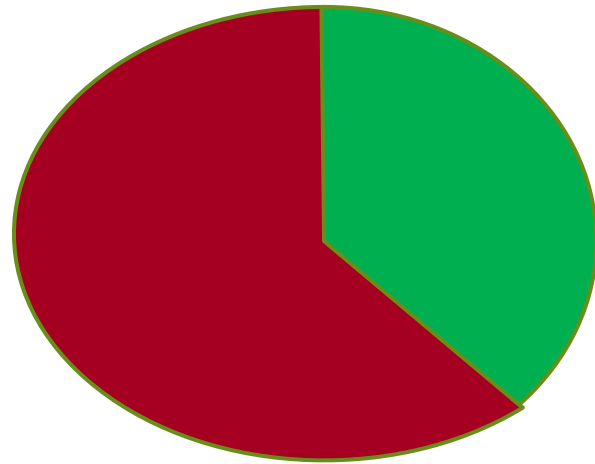
通気性があり微生物相を改善(アルカリ性)



排水性・保肥性が良い

土の配合 (例)

赤玉土 6 : 4 腐葉土



水やり

『水やり三年』とよく言われ、上手な水やりはなかなか難しいものですが、欠かせない作業であり単に水をやるだけではなく、生育状態を診断するチャンスでもあります。

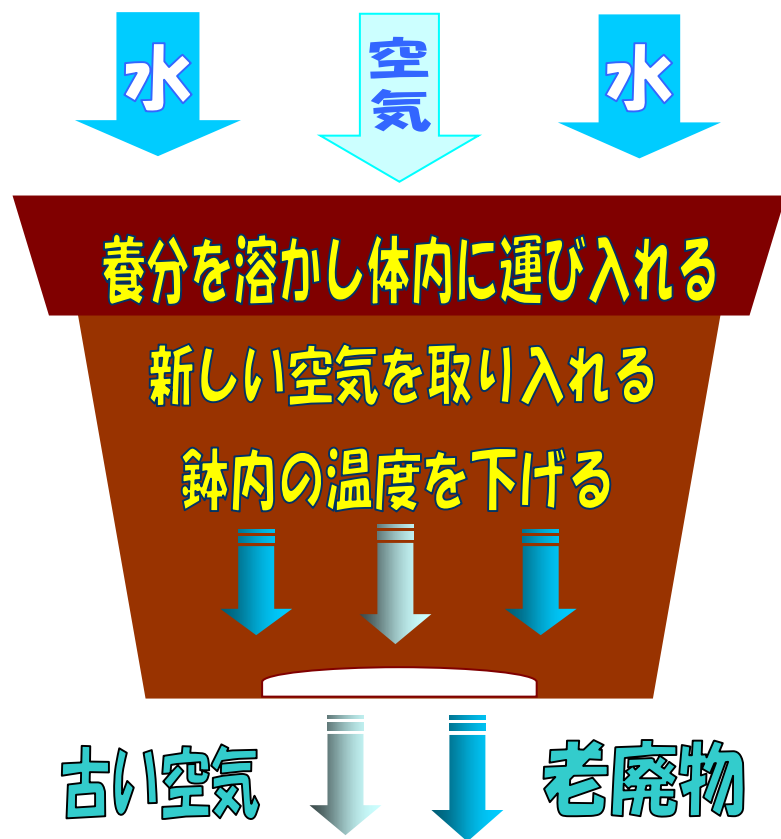
水は植物にとって生きていく上で必要不可欠であり、特に室内の観葉植物にとっては、植物本来の生育環境ではなく人工的に補わなくてはなりません。

水をどんどん与えすぎると土の空気がなくなり、根が水分を吸収することができなくて根が腐っていきます。

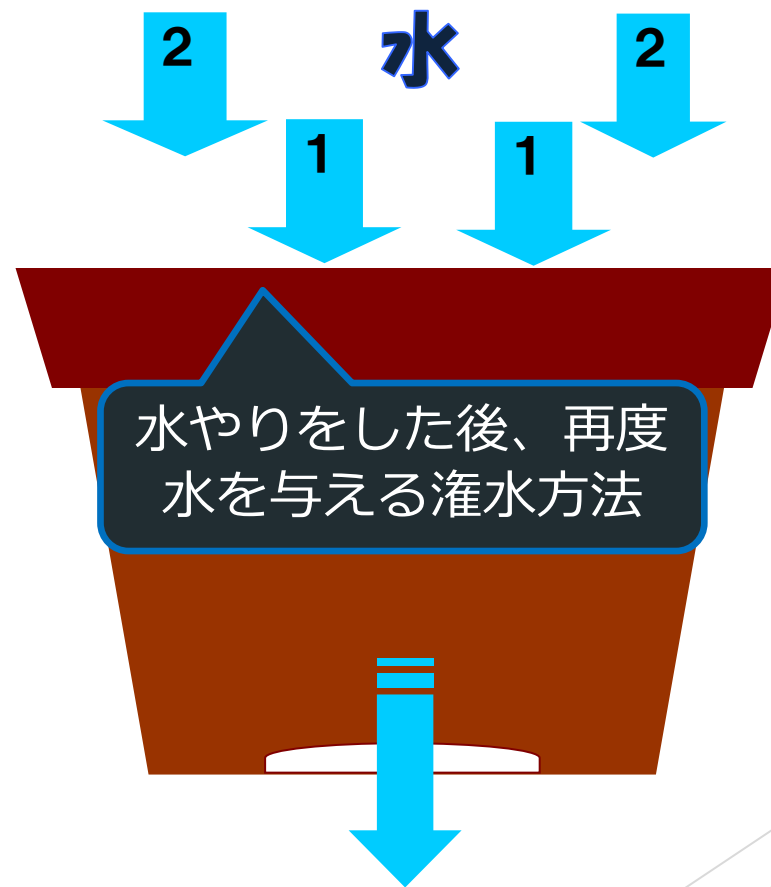
効果的な水やり(根の環境を良くするための基本の水やり)

- ◆ 土の表面が乾いてから水を与える。
- ◆ 水やりする時は、**ゆっくり・たっぷり**
- ◆ 鉢皿に水を貯めない。

水の働き



反復灌水



春の種まきです。
今回は、センニチコウの
種まきをします。





**種まき用資材のトレーに、種まき専用の土を入れます。
土は、予め水分を吸収しやすくする為に水を含ませます。**



土を均等に入れたら
水を吸水させます。

こんな感じです！



種を1マスに
一粒ずつ入れて
いきます。



まき終われば、細かいバーミキュライトを
種が隠れるくらい敷き詰めます。



底面から吸水して
発芽まで水分不足に
注意します！

